お祖師さまを巡る人々 第13回

高祖日蓮大士ご降誕 800年慶讃

【熊王丸】は、お父さん・お母さんの顔さえ知らない孤児（親のいない子）だったんだ。ある日、沢山の人の前で御題目のご信心のお話をされているお祖師さま（高祖日蓮大士）の姿を見て、とても感動するんだね。そこで、【熊王丸】は「お側で仕えさせて（目上の人のそばにいて、その人のために働く）ください」とお願いしたんだよ。今回は【熊王丸】、後の【日法上人】のお話をするね。

日法上人

【熊王丸】は、両親もなく、どこの出身（生まれた所）かも分からないんだけど、正嘉二年（一二五八）の生まれで、名前は【徳永光長】ということは分かっているんだよ。【熊王丸】というのは幼名（おさない時の名前）なんだね。

お祖師さまは、「お側で仕えさせてください」と頼む【熊王丸】を小僧（仏門に入り修行する男の子）として、身近（自分の近く）において養う（めんどうを見ながら育てる）ことにしたんだね。

【熊王丸】は、お祖師さまにお仕えしながら沢山のことを教わるんだ。また、周りのお弟子やご信者方からも、いろんなことを学びながら成長していったんだよ。

【龍ノ口の法難】の時には、お祖師さまからの大切な言いつけ（上の者が下の者にあることを行うように言うこと）を、しっかりと果たし（やり通す・達成する）たんだよ。（令和二年七月号の『お祖師さまを巡る人々・第七回』を読んでね）

お祖師さまが、ご晩年（年老いてからの時期）に身延山（山梨県）に入られると、【熊王丸】も身辺（身のまわり）のお世話のためにお供（目上の人などについていくこと）したんだね。

【熊王丸】は、身延山で得度（お坊さんになること）することとなり、【日法】というお坊さんの名前をいただかれたんだよ。

やがて、お祖師さまから甲州（山梨県）や駿河（静岡県）地方のご奉公を任せられるようになったんだね。

【日法上人】は、駿河岡宮（静岡県沼津市）に天台宗のお寺があったんだけど、このお寺の住職の空存を折伏（あやまりを注意し、正しい方向に進ませる）したんだ。

空存は、お祖師さまのお弟子となり『日春』という名前をいただき、天台宗のお寺も『徳永山光長寺』という御題目のご信心のお寺になったんだよ。

また【日法上人】は、彫刻がとても得意だったんだ。だから【日法上人】が彫ったお祖師さまの像がたくさん残っているんだね。私たちの本山宥清寺にも【日法上人】が彫られた立派なお祖師さまの像が（左上の写真）があるんだよ。本山のお祖師さまの像については、またくわしくお話しするから、楽しみにしててね。

お祖師さまが亡くなられ荼毘（火葬）に付された時には、お祖師さまを恋慕う（とても強く恋しく思う）あまり、お骨の一部を火の中から取り出し、光長寺に持ち帰られたんだ。本当に【日法上人】は、お祖師さまが大好きだったんだね。

【日法上人】は、暦応四年（一三四一）一月五日、八十三歳でお亡くなりになるんだよ。

高祖日蓮大士御霊像（本山・宥清寺蔵）
弘安２年（1279）日法上人の謹刻で、お祖師さま御自らご開眼されたもの。平成元年（1989）に重要文化財として国から指定をうけた

幼い頃からお祖師さまの側で、いつもお祖師さまを見てきた。そんな日法上人だからこそ数多くの素晴らしい祖師像を彫ることができたんだろうね

徳永山光長寺（法華宗本門流大本山）
お祖師さまを開祖として日春・日法が「同時二祖」となっている。光長寺には、お祖師さまの御舎利や日法上人がお祖師さまの教えや講義を書き留めた文書【御法門御聴書（上巻）・御法門御聞書（下巻）／静岡県文化財】などが格護されている

敷皮石（鎌倉・龍口寺蔵）
日法上人が、お祖師さまの龍ノ口法難の地に堂を建立し、自作の祖師像と敷皮石（写真）を置いたのが龍口寺の始まりと伝わっている。（敷皮石とは首をはねられるときに座ったもの）